

令和7年度 狭山市立御狩場小学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 自己評価は、保護者アンケート【保】や教職員アンケート【教】を中心に、A+Bを評価として示す。また、アンケートが対応しない項目は、管理職の評価【管】による評価として示す。

※ 【評価の目安】 A：よくできている。(90%以上) B：概ねできている。(85%以上)
C：あまりできていない。(70%以上) D：できていない。(70%未満)

領域	番号	評価項目	自己評価		学校関係者評価から
			評価	説明	評価(文章表記)
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。【教】	A	・教職員同士が助け合い、一人任せにしない風土ができている。また、教職員が児童理解に努め、良好な関わり合いができるよう支援している。	・児童数の減少に伴い、教職員と子供たちだけで学校をきれいにしていくことに関し、今、協力しているボランティアさんの協力だけでは対応は難しい状況から、限界がある。 ・保護者の方が参加しているが、もっと保護者の協力と、その機会が必要。 ・子供たちも家庭で清掃する機会が少ないこともあるので、子供たちと触れ合いを大切にしながら、掃除の仕方も一緒に教えていきたい。
	2	児童生徒は、学校生活が楽しいと感じている。【保】	A	・児童数減少に伴い、清掃場所が手薄になりやすいため、ボランティアさんを集い、できる範囲の清掃活動はできた。	
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。【教】	A	・清掃時間を、週2、3回の朝の時間に実施しているため、下校時には床にゴミがある状態になることが気になる。 ・施設劣化に伴うトイレや水漏れ等、気づいた段階で早期の対応を行うことはできた。	
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。【教】	B		
	5	学校の施設設備は安全に管理されている。【教】	A		
学習	6	教師は、児童生徒が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。【保】	B	・教職員の自信はやや低いものの、児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。	・タブレットを活用した調べ学習は、教科書以上に深い学びが得られるため、今後も積極的に活用してほしい。 ・調べ学習の宿題は時間を忘れて取り組んでしまい、就寝時間が遅くなる点が課題であり、終了が明確な教材の活用による課題提示の声がある。 ・夏場の体調不良を踏まえ、リモート授業の更なる充実を希望する声もある。 ・算数タイム(朝の時間)にボランティアの人員を生かし、時間場所を有効活用して基礎学力の定着を図る取組ができた。
	7	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。【教】	B	・ICTを活用した研修や事例共有により、電子黒板やGIGA端末の活用が進み、授業改善の意識も日常会話の中で自然に広がっている。学校ならではの主体的学びをさらに推進したい。	
	8	児童生徒は、基礎的基本的な学力を身に付けている。【保】	B	・家庭学習や体力チェックなどの全学年共通課題により学習習慣は整ったが、忘れ物や基礎学力の二極化が課題となっている。	
	9	児童生徒は、家庭学習の習慣を身に付けている。【管】	B	・英語では専科不在の中、ALTと職員の連携で一定の学力向上や意欲向上は見られるが、児童が積極的にコミュニケーションを取ることはまだ難しい状況である。	
	10	児童生徒は、英語活動をとおして積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。【管】	B		
規律ある態度	11	児童生徒は、進んであいさつをしている。【保】	A	・子供たちは約束事を守り、落ち着いた生活態度である。	・学校全体としては、児童が落ち着いて生活している様子がわかる。小規模校ながら、アットホームで他の学年とも交流が盛んであり、他学年の交流も多く、これが御狩場小の特色の一つになっている。 ・校長先生の手書きメッセージや教職員の丁寧な指導支援のおかげで、児童は毎日楽しく登校し、学習や行事にも意欲的に取り組んでいる。授業や行事での教職員の姿勢や雰囲気作りも好印象で、児童は教職員との関わりを楽しみ信頼している。一方で、言葉の伝え方や指導の仕方などで子どもが理不尽さを感じる場面や、相談しにくい状況があることが課題で、安心して相談できる環境づくりが望まれる。
	12	児童生徒は、場に応じた言葉遣いができている。【保】	A	・挨拶等は教職員にはしっかりするが、教職員以外の人には、できない児童も少なくない。	
	13	児童生徒は、時間を守って生活している。【管】	A	・本校の強みである縦割り活動が定着し、高学年がお手本となっているため、低学年への良い伝統を引き継いでいる。	
	14	児童生徒は、きまりを守って生活している。【管】	A	・基本的には手本となる行動を全教職員が意識しているものの教職員による強い口調で指導することや児童が納得できない指導もあったことも数件あった。子供たちの思いに寄り添った指導を心がけている。	
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。【管】	B		
健康体力	16	学校は、児童生徒の体力を高めている。【保】	A	・自主的な朝マラソンが浸透している。 ・業間休みにもマラソン長縄、鬼ごっこ等様々な遊びを高学年児童が主体となって企画し、運動好きの児童が多い風土ができている。	・学校の教育活動で子供たちが思い切り活動したり、汗いっぱい運動したりする取り組みがなされている。 ・雨と寒さの中、児童たちの体調を考慮して校内待機など柔軟な対応をした教職員に感謝の声があった。 ・準備や練習期間が短いにもかかわらず、運動会はどの種目もよくできており、雨の中でも、教職員と児童双方が「保護者に輝く姿を見せたい」という思いをもって取り組んでいる様子が保護者、地域にも伝わり、感動した。
	17	児童生徒は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。【保】	A	・給食後の歯磨き指導を職員間で共通確認をし、子供たちの習慣が身に付いているものの、虫歯治療が終わらない児童も数名いる。引き続き、保護者への協力を機会を見つけ、伝えていく。	
	18	児童生徒は、健康を意識した生活をしている。【保】	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。【保】	A	・スクリーン等を活用し、ほぼ毎日「みかりば日記」で学校の様子が伝わるように努めてきた。併せて、学級通信等で担任による情報開示も積極的に実施してきた。 ・学校応援団と連携は積極的に図れているので、支援の幅を広げていく。	・水泳学習の民営委託や外部講師による指導、ものづくり体験や警察音楽隊の演奏鑑賞など「本物」に触れる機会が多く、保護者も参加できたことで、家庭での会話が広がった。 ・こども110番の家の登録者も増加し、こども110番の家スタンプラリーを実施することで、こどもの防犯意識を高めるだけでなく、地域とのつながる機会にもなった。
	20	学校は、保護者や地域と連携協力し、教育活動を行っている。【保】	A		